

岡崎嘉平太記念館

だより

Vol. 6

2006.12



岡崎嘉平太氏遺墨

個人蔵

初日の出おろがむは、をふる里に
思ひうかべてわれもおろがむ

昭和二十年元旦 於上海 嘉生

初日の出おろがむは、をふる里に

思ひうかべてわれもおろがむ

昭和二十年元旦 於上海 嘉生

昭和二十年、終戦を迎える年、岡崎嘉平太氏は、上海で大東亜省の参事官として大使館事務所に勤務していましたが、家族を日本に残したままでの勤務でした。岡崎氏は母を大変大切に思っていたので、遠く離れた故郷にいる母のことを思いながら新しい年を迎えたのでしよう。のお氏は、大変信仰心が厚く慈愛に満ちた人柄で、時に厳しく岡崎氏を育てたとされています。

母の後ろ姿

嘉平太氏と母(のお)

去る十月下旬朝日新聞の声欄に、吉川英治と母親の腰ひも、という二十一歳の学生の投書が載っていました。「：吉川氏が若い頃住込み職工として働いていた時、家から一個の小包が届き、それをゆわえた紐が使い古した母の腰ひもだった。弟妹の世話に忙しい母堂のよこした小包に、そして何回も何回も洗っては使った母の腰ひもを、ありがたく思い、吉川さんは自分のバンドの上いきゅつと縛って身を引き締め、くじけそうになった時には、母と一緒にいるんだ、とその紐を見、自分に言い聞かせて、がんばってきたということ。私も三年前、初めて下宿した時、家からの小包がなかなかほどこけず、やっとほどいた時に、何か言いしれぬ思いが涙とともに浮んできました。父のしっかりとゆわえたこの紐に一種の安心感を抱いたので。僕にもこんな小包の紐をしつかりゆわえてくれる父がいるんだ、とありがたく思いました。小包一つにしても、何気なく使った母の腰ひもの縛り方一つで子はその中に流れくる親の愛情を、つぶさに感じる事ができる、と私は思いました。」(中略) 子供は親の後ろ姿を見て育つ、といひます。ほんとに、子供を良く育てるのは、理性による直接の説教ではないようです。親の「親ばかりではない、先生や先輩の―内面に持つ理性が絶対愛の感覚を通じて、それもほとんど巧まない日常の動作となり、その端々が子供の純白な心に日々印象されて、子供の人格を形成し、生涯ゆるがない基礎となるのではないのでしょうか、その一つ一つの印象の善し悪しが、その子供の一生を左右するのだと思います。家計簿をつける一事でも、単に家計をきりもりするだけのことと思っはなりません。子供は母の毎日の真面目な生活態度と、それに協力する家族の和やかな雰囲気、その身にしみこませつつ成長しているのです。(一九七一年一月)

岡崎嘉平太著「私の記録」東方書店発行より

■「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第五回講演会」

平成18年9月30日(土)開催

●演 題 「岡崎先生と中国」

やまざきくにお
講師 山崎 邦生 氏 (全日本空輸(株)執行役員 中国総支配人兼北京支店長)

●演 題 「閉塞した日中関係をどう打開するか
-平和・協力のパートナーシップを求めて」

あまこ さとし
講師 天児 慧 氏 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授兼同研究センター所長)

山崎氏は、若き日の胡錦濤氏(現国家主席)等との宴会へ岡崎氏に誘われて臨席し、会食後、岡崎氏が「彼(胡氏)は絶対に偉くなる」と明言し、その慧眼に驚かされたことや、中国に初の全日空チャーター便を飛ばす交渉が難航した際、「自社利益ばかり考えず日中交流のため中国民航の切符も売りなさい」と岡崎氏から助言を受け、その考えで交渉すると上手く進んだこと等、岡崎氏の人柄やエピソードを紹介した。また、現在



山崎 邦生 氏



天児 慧 氏

2回目の北京駐在で在北京日本人会会長としてもご活躍の山崎氏は、「昨年、北京駐在の日本人は十万人を超え、企業は三万数千社になった。三百を超える友好都市ができ、年間四百五十万人の往来がある。政治面ではいろいろなさざ波が立っているけれど、常に岡崎先生の志を忘れずに庶民レベルでの交流をすすめ、相互理解を育てるのが自分の役割である」と述べた。

天児氏は、経済の活発化に伴う環境汚染など様々に問題を抱えながら発展する中国の現状を紹介し、日本は中国の抱える問題の解決に協力すべきとした。そして、経済や人的交流で相互依存が進む中、歴史認識や靖国問題が中国の人の感情を刺激し、対話が途絶えデメリットが生じている外交に私達が関心を持つこと、そして、新政権には世界の変化を正しく認識し、中国と共存の戦略を創造すべく政治的な対話を早く持つよう期待していると話した。また、中国での反日デモがメディアを通じ日本へ伝わり日本人の反中意識が強まっているが、中国の人の意識の多様性について触れ、反日感情は悪化の一途ではないとした。そして、情報化が進む中国へ日本の過剰な反応が伝わり誤解が誤解を生みながら日中相互不信が浸透するのが恐いと述べ、人的交流の場面で、私達が、戦争や平和について積極的に対話を行い、理解を積み重ねる努力をすることが大切と述べた。

※これらの記録を冊子にまとめ頒布する予定です。

- ・ 岡崎先生の人間のスケールの大きさ、あたたかさがイメージできた。
- ・ ここ数年この講演会に参加しているが、岡崎氏は過去の偉業を成し遂げた人と言うよりも、現在も生きて働いている(出会った人の心の中に)と感じた。
- ・ 中国国内の現在の様子が新鮮に伝わり、自分の意識を変えることができた。
- ・ 具体的な資料で、最近の中国の人の感情が分かった。
- ・ 今日の日中関係は特に政治面で最悪の状況にある。..スポーツの場にも反日が展開される始末、このことはいかに両国の指導者間の信頼関係が壊れていたかを示している。岡崎氏のように大きな視野に立つ人の存在が必要だと思う。人と人との信頼関係により国益が大きく左右されるかがよくわかった。両国間で、それぞれの立場を尊重するような話し合いの機関の設置等の地道な努力が求められる。中国国民調査結果から、テレビ等のメディアの伝え方にも問題があることが分かり少し安心できた。
- ・ 教育の仕事をしている者として、身近な偉人を理解し、伝えていかなければならないと感じた。



講演会に参加して
アンケートからの抜粋



企画展「第二回 岡崎嘉平太 遺墨展 —新寄贈品を中心に—」

平成18年9月22日(金) ▶ 11月30日(木)開催

このたびの企画展では、期間中2,000名を越す見学者が会場を訪れました。

岡崎嘉平太記念館では開館当初、岡崎氏の遺墨をわずか1枚しか所蔵していませんでしたが、この5年間にご遺族をはじめとし、多くの方々のご厚意による寄贈を受けました。そして、岡崎氏愛用の筆や印などの書道道具とともに、岡崎氏が、親類や親しい友人に贈った書など40点あまりを展示し、「第二回 岡崎嘉平太遺墨展」を開催することができました。

ここに展示品の一部を紹介します。

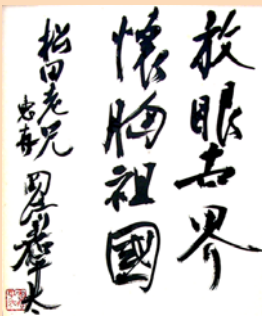


会場の様子

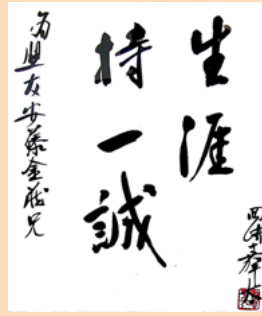


揮毫する岡崎氏

岡崎氏は、贈る相手や書かれた文言により字体を変えていたといわれています。その筆跡は誠実、実直でありながら、あたたかな人柄が伝わります。



放眼世界
懐胸祖国
(祖国を思い眼を世界に向ける、という意)



生涯持一誠
(生涯一誠を持つ、という意)



愛人者人恒愛之
(人を愛する者は、人の方からも恒に愛されるようになる、という意)



人間本来無一物
(人間は本性として、本来なにもない「無」の存在である、という意)



墨刷り機

生涯、日本と中国の友好と交流の拡大のために奔走し、同時に経済界でも経営者としての手腕を発揮し、多忙を極める日常にあっても大変筆まめで知られる岡崎氏は、揮毫を頼まれば筆をとっていました。自分で「書の控え」という手帳を作り、いつ誰に、どの様な内容の書を贈ったかということ細かく記していました。

また、時子夫人は著書『ひのえうまのいななき』の中で、岡崎氏の揮毫の様子を「色紙を向けられますと、『書くのは書きますが、恥をかくだけ』と笑わせ、年齢を重ねるにつれて腰痛が増して、大きな物を書くのは大変なようでしたが、下手な僕の書でも望んでくださる方の御意に沿う事が出来ればと申して、お引受けしておりました。」と綴られています。



書の控え

おかざきかへいた

岡崎嘉平太さんものしりトピックス

みなさんの住む吉備中央町内の学校や
公民館には、嘉平太さんが筆で書いた言葉
がたくさん遺っています。いくつ知って
いますか？嘉平太さんは人から頼まれると
「下手な僕の書でも頼んでくれた人の気持ち
に答えることができるように」と、忙しい中を書いたそうです。『人の身になって
考えよう』は、嘉平太さんが一番大切にしたい心がけの一つです。



きねんかん 記念館からのお知らせ



さを多くの人に伝えたいと一生懸命にまとめてくれたことが
よく伝わります。みなさん見に来てくださいね。



平成18年12月1日、開館以来の入館者数が5万人を
超えました。五万人目は岡山市在住の伊野家ご夫妻です。
みなさまも、ぜひ岡崎嘉平太記念館へお越しください。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>

Eメール okmh@kibicity.ne.jp